

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB220	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ			派遣都市	チッタゴン
受入機関	The Chittagong Chamber of Commerce and Industry (CCCI)				
受入機関概要 (事業内容等)	チッタゴン管区内における経済について広報活動、政策提言、セミナーの開催を行う。				
派遣期間	2013年12月3日～2013年2月28日				
現在の所属先	デロイトトーマツコンサルティング合同会社		当時の所属先	法政大学	
現在の所属部署			所在地	東京	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

バングラデシュ政府は、貿易、産業、投資などを通じた経済開発のために、外資企業とどういったwin-win関係の構築を求めているのか、どのビジネス分野を更に開発していきたいのか、相手国における市場ニーズを調査する。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- ・チッタゴンにおける投資環境の現状と課題を調査するために、公的機関・民間企業へのインタビュー、案件視察
- ・セミナー、会議の運営

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

(1) 市場・業界情報等の調査

公的機関だけでなく、民間企業へもインタビューへ行くことで、包括的に情報収集が出来、現状・課題ともに理解することができた。また、日常のインターンシップを通じて、両者のビジネスに関する情報交換が出来た点が有意義であった。今後のビジネスにおける日バの架け橋だけではなく、個人的にもバ国の開発問題を解決できるような人材になりたい。

(2) グローバルビジネスリーダーとしての資質の向上

新興国・途上国におけるビジネスチャンスを把握したことで、それに合わせて将来のキャリアプランを具体的に描くことが出来た。

インターンシップ風景



チッタゴン港視察



縫製工場視察

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

(1) キャリアアップ

インターンシップ時は学生であり、終了直後は、外資系金融機関に勤めておりました。転職を経て、現在は経営コンサルティング会社で対企業向け事業戦略、事業改革に携わっています。

経済産業省主催のインターンシップ制度を通じて、新興国に滞在したことは、国の代表として非常に価値あることです。個人で応募するインターンシップとは異なり、相手国政府機関で業務が出来、多くの要人に接することが多く、自分の工夫次第で様々な付加価値を生み出すことが出来ます。

そういったことが評価され、私も経営コンサルティング会社へ転職することができ、夢である「国際機関で途上国の産業基盤整備、投資促進事業に携わる」という夢へ、少しずつ近づくことが出来ています。

(2) 当時の研究

当時、日本の援助政策(主に円借款)について研究をしていました。日常の研究では、日本国内の状況は調査することが出来ても、被援助国の政府がどのような体制で援助を活用しているのか、といった相手国側の現状を中々調べることが出来ず、研究に息詰まる日々が続いていました。

インターンシップを通じて、バングラデシュの様々な公的機関を訪れることが出来、インターンシップ業務だけでなく、自身の研究にも大いに役に立ちました。政府の要人や重要案件を訪問することが出来る機会を与えてくださったことに感謝しております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

途上国向けのビジネスに関心がある方は、是非応募を強くお勧めします。HIDAの方々の心強いサポートもあり、何よりもこのインターンシップ事業は経済産業省の公式制度です。多くの情報、人脈など、皆さんの今後を左右するリソースが待っています。滅多にないこのチャンスを、是非活かしていただければ幸いです。